

早稲田唯一のサークル連合体

文連の取り組みを紹介します

文化団体連合会（文連）は、早稲田の伝統ある文化系サークルが集う、早稲田唯一のサークル連合体です。

これまでのページで見てきたように私たち文連加盟サークルは、それぞれの場で日々の芸術表現や理論研究に励み、早稲田サークル文化を創造的に発展させています。

同時に私たちは、多様なジャンルのサークルが集う連合体のつながりを生かし、サークルどうしの交流をおこなっています。サークル補助金の増額や学費値上げストップ、サークル活動施設・備品の改修・拡充などサークル運営上直面する様々な問題にも、力をあわせて取り組んでいます。

これらを文連のもとに結束し協力して行なうことにより、早稲田の活発なサークル活動を守り・発展させてきているのです。

ここでは、その一端を紹介します。

早稲田サークル文化の発展のために サークル間の交流や協力をすすめています

新歓パンフレットやサークル交流誌「文化の交差点」を発行

私たち文連加盟サークルは、毎年春に多くの新入部員を各サークルに迎えるために、有志プロジェクトチームを結成し、文化系サークルの魅力を伝える新歓パンフレット「文化運動」を協力して編集・発行し、配布しています。

この他にも、各サークルの演奏会、発表会、演劇公演の案内や文芸作品・エッセイ、劇評・音楽評などを掲載したサークル交流誌「文化の交差点」を、編集委員会を結成して発行。ジャンルを横断してサークル員が相互に企画に足を運ぶ鑑賞しあい・交流を深める機会を提供する紙上交流誌として親しまれています。



昨年発行した「文化の交差点」の表紙



新歓活動期間には、文連新歓パンフレット「文化運動」を配布

サークルが直面する諸問題を解決するために、 団結して大学と交渉しています

サークル補助金の増額や、 制度の改善を大学に求めています



問題だらけの現行サークル補助金制度

- ① 支給対象は大学当局が認めた「イベント経費」のみ
→サークル活動に必要な経費でも、「イベント経費」と大学当局が認定したものしか補助金支給対象にならない。当局の「査定」によって支給対象外となることも。しかもその理由は開示されない。
- ② 最大でも支給額は「イベント経費」の半額・上限30万円まで
→支給額が絶対的に少ない。
- ③ しかも事後支給
→サークル活動経費を全額事前に自腹で払わなければならない、サークル員の金銭的負担は重い。



サークルの団結でかちとってきた サークル補助金制度の改善点

- ① サークル補助金対象に「講師料・指導料」を復活(2019年度から)、「美術系や芸術系サークルの美術館等入館料」などが加わる(2020年度から)。
- ② 補助金交付時期を「イベント報告書」提出後3~4ヶ月から1~2ヶ月に短縮(2018年度から)。
- ③ 補助金支給対象外だった「通常活動」(定例部会、練習など)も「イベントにひもづけ」れば支給対象に(2017年度秋から)。

早稲田の活発なサークル活動は、日々の地道な練習・研究の積み重ねなしにはありえません。しかし、これを財政的に支えるものであるべきサークル補助金制度は、左上表のように、サークルの実情とはかけ離れたものです。サークルが申請したとおりに補助金支給されにくく、支給額もきわめて低額に抑えられています。昨秋からの消費増税にともない、サークル活動にかかる材料費や施設利用費等も値上がりしており、サークル員の負担は増大する一方です。

このような現状を打開するために、私たちは、大学当局にサークル補助金の増額と制度の改善をくりかえし求めています。二〇一八年十二月には、各サークルの要求や意見を集約し、学生部長にたいする具体的な改善点を示した「要求書」を提出しました。このような取り組みを続けて、昨二〇一九年度は着実に補助金制度の改善をかちとってきました(右上表参照)。

引き続きサークル補助金の大幅増額・制度の抜本的改善を大学当局に求めています。

施設・備品の改修・更新・拡充を求め実現しています



音楽練習室の椅子の中にはネジがゆるみ座面と骨組みが分解してしまうものもあり危険。

サークル活動を活発に行なっていくうえで、施設・備品が老朽化し、練習場所が不足していることは、深刻な問題です。

この問題についてもサークルの意見を集めて施設改善を大学当局に要求しています。その成果として、学生会館W棟会議室の机の更新や和室の畳の全面的な入れ替えを実現しました。

引き続き、施設・備品の改修・更新・拡充を大学に求め、実現していきます。

学生会館W棟会議室の机の更新を実現しました。



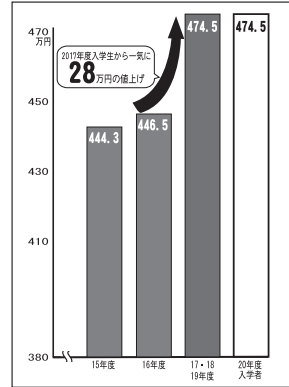
超高額な学費のさらなる値上げに反対しています

二〇二〇年度入学生の学費は、四年間総額で文系学部平均が約四八〇万円、理系学部平均で約七〇〇万円！この十年間で早稲田の学費はうなぎのぼりに値上げされ、いまや私大の中でも群を抜いて異常な高さとなっています。

政府による「アベノミクス」政策のもとで労働者の実質賃金は低下している一方、消費増税による生活必需品をはじめとした物価高や社会保障費の負担増加により、家計は圧迫されています。高学費の負担は、仕送りや小遣い額の減少に直結しかねません。また、学費や生活費を捻出するための過度なアルバイトによって、サークル活動に割く時間が制限されてしまうことは、サークル活動の質の低下などの深刻な影響をもたらしかねません。

私たちは、これ以上の学費値上げに反対する声をサークルからも上げていきたいと思います。

社会科学部の場合
この5年間で30万円の値上げ！
(4年間総額)



～「平和主義」「言論・表現の自由」を否定する憲法改悪に反対する運動にも取り組んでいます～



1010人もの労働者・学生・市民が集まり「憲法改悪阻止！日本の中東派兵を許すな！」の声をあげました（2019年11月17日、「浅草公会堂」にて）。

私たちのサークル活動にとって、現行憲法に保障された「平和主義」「言論・表現の自由」はなくてはならないものです。ところが安倍政権は今年、これらの理念を否定する自民党改憲案を国会に提出し、さらに改憲国民投票を強行しようとしています。

自民党改憲案は、「戦争放棄」を定めた現行憲法9条を破棄するとともに、内閣の判断一つで私たちの「基本的人権」を剥奪できる「緊急事態条項」を新設するものです。文化創造に携わる者にとって決して見過ごせません。

私たちは、常任委員会の呼びかけで有志プロジェクトを結成し、安倍政権による憲法改悪に反対する運動にも積極的に取り組んでいます。

昨年は、画家の池田龍雄さんや作曲家の池田晋一郎さんら多くの文化人・知識人とともに文連委員長も呼びかけ人となり「憲法改悪を許すな！ 11・17怒りの大集会」を開催。多くの文連サークル員が参加しました。

早稲田サークル文化の発展は、サークルどうしの団結に支えられています

上に見たように、サークル活動を行なう上で支障となっている諸問題を、サークルが協力して解決することが、早稲田のサークル文化の発展に不可欠です。

しかし、サークル補助金制度の問題や施設・備品の改善要求といった問題は、一サークルの声だけで解決することは困難です。私たちは、各サークルの意見を集約し統一した要求としてまとめ文連として大学当局と交渉することを図って現状をつくりかえてきました。サークルどうしがジャンルや規模のちがいをこえ、協力して問題を解決する作風は、早稲田の伝統です。このようにして、大学当局による種々のサークル活動規制をはねかえし、サークル活動条件の改善をかちとることを図って、サークルの諸権利を守り・発展させてきたのです。

年二回行なわれる文連の定例総会では、加盟サークルの幹事が集まりサークル活動をくりひろげる上で確立した指針にのっとり、討議をこらして確立した指針にのっとり、決まるとりくんでいきます。

サークルどうしの連帯を強め、早稲田唯一のサークル連合体である文連を、サークルの団結の拠点として強化していきましょう！



2019年度後期定例文連総会の様子
(2020年1月30日 学生会館)